

特別養護老人ホーム 足原のぞみ苑  
地域密着型特別養護老人ホーム 足原のぞみ苑ユニット  
短期入所生活介護 足原のぞみ苑  
令和5年度事業計画

1 令和5年度の目標

今年度の目標は、特別養護老人ホーム、ユニット、短期入所生活介護同様に「利用者の安心安全な暮らしの継続」と「職員の働きやすい環境づくり」と「多職種協働」です。その方法として、施設内の多職種共同24時間マニュアルを作成し、全職種で利用者に合わせた動きを医師、介護、看護、相談員、介護支援専門員で行い、職員全員で利用者を見ていくことを目標とします。今現在紙面での介護内容の各マニュアルは存在するが、あまり使用することなく有るだけとなっている。いつでも必要なマニュアルにするために、動画を用いた時系列で職員の動き方のマニュアルと利用者に対しての対応マニュアルを作成する。働きやすい環境に関しては、腰痛予防と認知症の方の対応について考えていきたい。腰痛予防としては入浴介助時の腰の負担が大きいため、浴室にリフトの導入を検討していく。認知症の方の対応については、見守りセンサーを標準化することと、対応方法についての多職種で検討会議を行うようにしていきたい。最後に利用者の安心安全な暮らしの継続についてだが、安心安全な暮らしの継続を行い、最後のときまで家族と一緒に利用者に寄り添える体制の構築を行ってきたい。医師、看護師、介護士、相談員、介護支援専門員等、そして家族とのより良い関係性を築いていく。

特別養護老人ホームの足原のぞみ苑の来年度のベッドの稼働率95%を目指していく。とれる加算を算定していき安定した経営を行う。昨年の試みであった介護福祉士を増やすための介護福祉士実務者研修養成施設は、順調に稼働していき3年の介護経験を達成する職員が受講できている。今年介護福祉士試験を受験した職員は全員合格予定である。

地域密着型特別養護老人ホーム足原のぞみ苑ユニットはベッド稼働率95%を目指していく。ユニット施設では介護度の重度化が進んでおり、COVID-19もあり活動行事が極端に少なくなっている。今年度は家族を交えた活動行事を多く行っていきたい。個室を活かした個別ケアも再度検討していき、基本原則の生活の継続を行っていく。ある程度の対策を取りながら家族との関わりのある生活支援を行っていく。

短期入所生活介護足原のぞみ苑は、COVID-19の影響を最も受ける施設なため、ある程度体制をゆるめながら稼働率を上げていきたい。短期入所を利用しながら施設入所に移行していく方も増やしていきたい。今年度も引き続き被害を受けることがあると予想している。そのため、ベッド稼働率は65%に設定していく。周辺症状のある認知

症の方の受け入れを増やしていく。また、多職種協働により、積極的に医療行為が必要な方の受け入れを行い、稼働率を上げていきたい。

## 2 事業計画

- ①利用者の安心安全な暮らしの継続
- ②職員の働きやすい環境づくり
- ③多職種協働

### ア) 利用者の安心安全な暮らしの継続

<計画>

- ・多職種共同24時間マニュアルの作成
- ・職員の質の向上
- ・利用者の急変に対する対応
- ・家族との関係性の向上

### イ) 職員の働きやすい環境づくり

<計画>

- ・多職種共同24時間マニュアルの作成
- ・新人職員の教育システムの構築
- ・ノーリフティングケアの構築
- ・職員の意見を取り入れる組織づくり
- ・処遇改善加算の安定

### ウ) 多職種協働

<計画>

- ・多職種共同24時間マニュアルの作成
- ・多職種で検討会議
- ・家族と一緒に利用者に寄り添える体制づくり